



一隅を照らそう
6月号

353号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



武器を捨てて 数珠を持つとう

住職 中島 有淳

去る五月十九日、広島市にてG7サミットが開幕されました。各国首脳は原爆資料館も訪問し「芳名録」にメッセージを記されました。さらにウクライナのゼレンスキー大統領も参加し、ロシアによる侵攻を強く非難しました。

G7首脳の「芳名録」へのメッセージ

日本・岸田文雄首相

「歴史に残るG7サミットの機会に議長として各国首脳と共に「核兵器のない世界」をめざすためにここに集う」
「感情と共感の念をもって広島で犠牲となった方々を追悼する責務に貢献し、平和のために行動することだけが、私たちに課せられた使命です」

米国・バイデン大統領

「この資料館で語られる物語が、平和な未来を築くことへの私たち全員の義務を思い出させてくれますように。世界から核兵器を最終的に、そして、永久になくせる日に向けて、共に進んでいきますように。信念を貫きましょう！」

カナダ・トルドー首相

「多数の犠牲になった命、被爆者の声にならない悲嘆、広島と長崎の人々の計り知れない苦悩に、カナダは厳粛なる弔慰と敬意を表します。貴方の体験は我々の心に永遠に刻まれることでしょう。」

ドイツ・シヨルツ首相

「この場所は、想像を絶する苦しみを思い起こさせる。私たちは今日ここでパートナーたちとともに、この上なく強い決意で平和と自由を守っていくとの約束を新たにします。核の戦争は決して再び繰り返されてはならない」

イタリア・メロニ首相

「本日、少し立ち止まり、祈りを捧げましょう。本日、闇が凌駕(りようが)するものは何もないということを感じておきましょう。本日、過去を思い起こして、希望に満ちた未来を共に描きましよう。」

英国・スナク首相

「シエークスピアは「悲しみを言葉に出せ」と説いている。しかし、原爆の閃光(せんこう)に照らされ、言葉は通じない。広島と長崎の人々の恐怖と苦しみは、どんな言葉を用いても言い表すことができない。しかし、私たちが、心と魂を込めて言えることは、繰り返さないことだ」

G7の首脳が集って平和を願い、未来を見つめる言葉には期待と不安が入り交じります。

合掌

折りふしのはな

スギナ
おや？
路傍のスギナに
ふと足を止めた
今まで
あまり気にもしなかったけれど
全く久しぶりに
旧知の友にでも
出会ったかのように：
いつもいつもあたり前のように
身近にあつて
気付かないものって
きつと いっぱいあるんでしょね (遊)



月例行事案内

- ◎八日 午後二時 薬師如来祈禱会 観音経読誦
- ◎十二日 午後二時 智泉院法要日 (於・日本橋茅場町)
- ◎十八日 午後二時 観音経読誦法要 (於・神木観音堂)
- ◎二十八日 午後二時 不動明王護摩供修行

* 毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
ご都合のよろしい時にはご一緒にご参詣下さい

どなたさまでも
ご参詣下さい

『法華経』への誘い (三) 副住職 中島光信

令和三年四月より月に一度行つて参りました「二年かけて『法華経』を読む会」は、おかげさまで五月に読了し円成就しました。御礼申し上げます。

仏教では「解行双修」といい、鳥の両翼の如く学問的理「解」と実践修「行」がとても大切です。この二年間読誦した私たちに次に必要なのは、内容の理解でしょう。

晩秋より『法華八講』(全八巻の解説講義)を開講します。詳細はまたあらためて、ご期待下さい。

おたがわ

○六月四日は伝教大師最澄のご命日。「我が志しを述べよ」とご遺戒され、ご生涯に残された種々なお言葉をかみしめます。

道心の中に衣食あり 衣食の中に道心なし 云々

○五月二十一日。天台宗の京都五箇室門跡寺院の一つ、曼珠院門跡が百五十年ぶりに宸殿が落成。併せて第四十三世門主に西郊良光大僧正が入山。その祝賀会が盛大に催されました。当日は六百名を上回る出席者で、ご座主親下をはじめ菅前総理大臣ご夫妻も。大寺の日頃の交際はさぞや大変だろうと、感じ入りました。

○今年も裏池に二羽の鴨が飛来してエサをねだります。すっかりなれて逃げません。鯉のエサをねだって廊下にまで上がってきます。これは程度を超えています。

○本屋さんの子供コーナーは、沢山の本がとても豊かで魅力的に並んでいます。小さい頃にこうした本に接することの大切さを、今にしてつくづく思います。

○日射しも強くなり境内の木々は青々と繁り力強さを増してきました。その逞しさにエネルギーをもらっています。 合掌